



学校だより

—開校 61 周年 新たなる伝統への一期生—

平成 30 年度 第 3 号
発行日 6 月 22 日
練馬区立大泉第二中学校
校長 関 基雄

<http://www.ooizumi2-nerima-tky.ed.jp>

6 月の取り組みを振り返って

校長 関 基雄

6 月 9 日の道徳授業地区公開講座では東京学芸大学教職大学院教授の赤羽寿夫先生をお招きしてお話を伺うことができました。そのお話の中で身近な例をあげて次のようなお話がありました。

この大泉周辺でバスに乗っていると、ある中学生がバスを降りるときにごく自然に「ありがとうございました。」と言って降りていく光景を見た。ほかのところではあまり見られない光景でちょっと驚いたのと同時に心が温まる気がした。それから注意しているとこの周辺では多くの大人がバスを降りるときにやはり「ありがとうございました。」と言って降りていることがわかった。こうした環境があるから子どもたちもごく自然に「ありがとう」と言うようになったのではないだろうか。「ありがとう」という言葉は言った人も、言われた人もそして周りにいたい人も皆の心を優しく変えてくれる。道徳というものはこの「ありがとう」の言葉のように人の心を変える取り組みなのである。

このお話を聴いて、道徳的な心を育てるのは、学校ではもちろん取り組んでいくものの、家庭や地域の力の大きさということを改めて感じました。また、家庭の影響力の大きさについて最近読んだ新聞記事の内容を思い出しました。それは小児神経科医友田明美先生を特集した記事です。最近では子どもへの虐待に関するニュースをよく耳にするようになりましたが、こうした虐待が子どもの脳に与える影響について友田先生は研究をなさっているとのことでした。先生の研究によると厳しい体罰を受けた子どもは学習や記憶にかかわる「前頭前野」が萎縮してしまい、さらに感情や思考をコントロールし、行動抑制力にかかわる部分も小さくなってしまうことがわかっているそうです。また、暴言を受けた子どもはコミュニケーションのカギを握る「聴覚野」が変形していたそうです。自分の身を守るために言葉が入らないように体が閉ざしてしまっているのだと思います。言葉の暴力は身体的な暴力より脳へのダメージがはるかに大きいこともわかってきておりそうです。気になるのは傷ついた脳は元に戻るのかということですが、安定した環境や周りの人と信頼関係ができれば脳の回復は可能だということでした。先生はインタビューの中で「親が変われば子どもも変わる」ということを強く述べていました。

この 6 月の取り組みの中で、子どもたちの健全な成長には、学校と家庭、地域のどこかが教育を行っていくというのではなく、それぞれの役割をしっかりと担い、一体となって子どもたちの教育に携わっていくことが大切であると改めて実感させられました。

部活動の活躍

◎女子バレーボール部

平成 30 年度練馬区中学校生徒総合体育大会 優勝

◎陸上部

第 69 回東京都中学校地域別（区部）陸上競技大会（夢の島競技場）

女子 1500m 第 6 位 記録 5' 06" 94 小倉 優凜（3 年）

女子 800m 第 1 位 記録 2' 37" 40 岡部 こころ（1 年）

◎吹奏楽部

アニメプロジェクト in 大泉 2018 に参加

5 月 20 日（日）、「アニメのまち 練馬区」を広く周知し、アニメによる地域の活性化を促進するため、アニメーション発祥の地、大泉で「アニメプロジェクト」が開催されました。大二中吹奏楽部が、銀河鉄道 999 や宇宙戦艦ヤマト他全 8 曲を演奏し、オープニングを飾りました。日頃の練習成果を披露し、訪れた地域の方や子ども達を楽しませてくれました。



（主催：アニメプロジェクト in 大泉推進連絡会・練馬区商工観光課）

小中一貫教育 合同研修会

大二中と近隣の大南小、大二小の 3 校は、小中一貫教育を推進する研究グループです。今回は、小学校の先生方が来校し、中学校の授業を観察し、その後、研究協議を深めました。

9 年間を見通した学習指導、生活指導の充実に向けて、今年度も連携を深め、課題改善に努めています。



PTA 給食試食会

PTA 生活厚生委員会が主催する試食会が開かれました。40 名の保護者方々の参加がありました。栄養士から、学校給食の役割や給食が提供されるまで手順等の講話後、試食会を開きました。毎日、安全で安心、おいしい給食を提供してくださる調理員の方々に感謝いたします。



道徳授業地区公開講座

6 月第二土曜日、道徳授業地区公開講座を開催しました。東京学芸大学教職大学院、赤羽 寿夫教授に講師を依頼し、「教科 道徳」に向けて、講演と意見交換会を行いました。学校における道徳教育の在り方、家庭や地域との連携について相互の理解を深める機会となりました。

